

満月の夜開く けいはんな哲学カフェ

第59回「ゲーテの会」

未来に向かう人類の英知を探る

— 時代の裂け目の中で、人々は何に希望を見出してきたか —

《思想・文学分野》

江戸と京に遊ぶ——日本美の探究者・九鬼周造

講師： 京都大学名誉教授 藤田正勝 先生

【講演要旨】 九鬼周造は『「いき」の構造』や『偶然性の問題』、『人間と実存』などの著作で知られる哲学者です。1921年から8年にわたってドイツ・フランスに留学して、1929年に帰国し、京都大学で西洋哲学史を担当しました。当時最先端であったベルクソンやハイデガーなどの哲学を紹介し、日本における実存哲学やフランス哲学の研究の礎を置いた人です。

九鬼には『文芸論』という著作もありますが、芸術や文芸にも深い理解を有した人でした。九鬼自身が「美の世界に生きた人」であったと言えると思います。自ら数多くの短歌や詩を作りましたし、日本の伝統的な音楽、とくに長唄や小唄、清元などを愛してやまない人でした。さらに晩年には京都・山科の地に粹をこらした邸宅を構えたことでも知られます。

そういう関心があったからだと思いますが、江戸時代を代表する美意識とも言うべき「いき（粹）」に深い関心を寄せ、それをめぐって精緻な分析を行い、その構造を鮮やかに描きだしました。本講演では九鬼の「美」の理解、彼の「美の世界」をテーマにとりあげますが、とくにその「いき」の理解に焦点をあて、「いき」とは何か、九鬼はなぜ「いき」を問題にしたのか、そういった問題について考えて見たいと思います。

【講師紹介】 1949年生まれ。京都大学大学院文学研究科、ドイツ・ボーフム大学ドクター・コース修了。京都大学大学院文学研究科教授、同大学院総合生存学館教授を経て、現在は京都大学名誉教授。

著書に、Philosophie und Religion beim jungen Hegel (Hegel-Studien, Beiheft 26)、『若きヘーゲル』（創文社）、『西田幾多郎——生きることと哲学』、『哲学のヒント』、『日本の文化をよむ——5つのキーワード』（以上は岩波新書）など。

【参考図書】 ご講演の内容の理解を促進するために次の図書が有益です。

藤田正勝著『九鬼周造——理知と情熱のはざまに立つ〈ことば〉の哲学』（講談社選書メチエ）（とくに第二章「「いき」の構造」を参考にしてください）

日時： 2018年5月29日（火） 18:00～20:30

会場： 公益財団法人国際高等研究所

参加費： 2,000円（交流・懇談会費用を含む）

定員： 40名（申し込みが定員を超えた場合は抽選）

申込： 高等研のHPからお申込みください

<http://www.iias.or.jp/communication/goethe>

締切： 2018年5月24日（木）

問い合わせ先： 国際高等研究所 ゲーテの会事務局

TEL：0774-73-4000 E-mail：goethe0828@iias.or.jp



けいはんな「ゲーテの会」とは・・・

けいはんな学研都市の建設理念は、「従来の近代科学技術文明を乗り越え、新たな地球文明を創造するために、西欧が生み出した文明の成果と自らに固有の東洋的文化を総合する」ことにあります。高等研にあるゲーテの胸像はその理念のシンボルです。満月の夜は高等研で、人類の未来と幸福・けいはんな学研都市の将来について一緒に考えてみませんか。



公益財団法人
国際高等研究所